

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.179

2014/10/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

今年も遡上してきたビワマス

大浦川(14/10/10)

今年も大浦川へのビワマスの遡上が続いています。山門の集落内では、台風 18 号前群れをなして遡上するビワマスの光景が素晴らしかったと住民の方が話されています。滋賀県内の幾つかの河川では稚魚の放流をしていますが、大浦川では行っていません。それでも多くのビワマスが遡上してくるのは流域の環境が維持されているためと考えられます。その環境保全の一端を山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会が担っていることとなります。湿原への土砂流入防止のための砂防・浚渫作業、昨年から今年にかけて松枯れが進行しているた



湿原への土砂流入防止作業(14/09/20)



枯死アカマツ伐採(14/09/24)



窯から炭を出す



炭を切って俵に詰める

め湿原の背景となる部分の伐採作業を行っています。

昨年解説用に復元した炭窯では、長尺の炭を購入し窯に入れ込みました。炭焼き体験を実物を使って先人がやっていた状態で「炭出し」や「俵詰め」を体験することができるようにし、早速地元の小学生が体験しました。



アサギマダラ多数飛来

アサギマダラ(14/09/18)



交尾しながら飛翔アサギマダラ(14/09/28)

アサギマダラは、今年も北上・南下の途中で森で観察できました。特に9月中旬から1ヶ月近くの間は森のあちこちで頻りに観察できました。沢コースの老杉周辺で観られることが多く、多い時には8頭が群舞?することもありました。長距離をどうして移動出来るのかというのが長い間分からなかったようですが、世代交代がその裏にはあるのではないかとされています。そんな目で観察していると樹木に止まった雌個体にスッと飛来した雄が交尾に成功しそのまま飛翔する状態が撮影出来ました。



コシタカコベソマイマイ14/09/25)



スッポンタケの幼菌を喰う
コシタカコベソマイマイ14/10/05)



スッポンタケ(14/10/05)

森を歩いているとしばしば大きなデンデムシの殻に出くわすことがあります。その多くはコシタカコベソマイマイです。殻は見る機会が多いのですが、生体を観る機会はそれほど多くありません。このデンデムシは、



カヤネズミの巣(14/09/27)



カヤネズミの巣に固定カメラ設置(14/09/27)

日本の固有種で滋賀県が南限になっています。比良山系あたりまでは分布しているようです。日本では、準絶滅危惧種とされており滋賀県周辺の都道府県でもいずれも準絶滅危惧種となっています。

全国的に減少が言われているカヤネズミの巣が今年も見つかりました。昨年(設置してしばらくは全く撮影出来ませんでした、降雪前から何回



サギソウ分布域の除草(14/10/05)



隙間がないほどのサギソウ(14/10/05)



無数に実ったサワギキョウ(14/10/10)

か撮影できました) 同様固定カメラを設置しました。

附属湿地の除草も延々と続いています。サギソウ分布域では他の草本類を抜き取ると下の右のようにビッシリとサギソウの株が詰まっています。これが開花株数が少ない要因と思われる来春には植え替えを行う予定です。また9月中湿地を彩ったサワギキョウも無尽蔵と思われるほどの実を付けました。このまま放置すると全域がサワギキョウで埋まってしまいます。種子が落下しないうちに刈り取りを行いました。附属湿地が観察し易い状態に保つためには、このような目配りと作業が欠かせません。



サワギキョウを刈り取った後の湿地(14/10/10)